

専門分野
【 基礎看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	看護学概論	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1 (45)
学習目標	1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 3. 人間にとっての健康の意義について理解する 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する		
回	主題	内容	授業方法
1回 2回	看護とは	1) 看護の本質 ①看護の変遷 ②看護の定義 2) 看護の役割と機能 ①看護ケア ②看護実践と質の保証 ③看護理論家の看護概念	＊アクティブラーニング 講義 グループワーク
3回	2. 看護の対象理解	1) 人間の心とからだ 人間の欲求(ニード) 2) 生涯発達し続ける存在としての人間	講義
4回 5回	3. 国民の健康状態と生活	1) 健康とは 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル	講義
6回 7回	4. 看護の提供者	1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題	講義
8回 9回	5. 看護における倫理	1) 職業倫理と看護倫理 倫理原則、患者の権利とインフォームド・コンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 医療における倫理的問題 4) 専門職の倫理規定 ①倫理綱領 5) 倫理的ジレンマ	講義 グループワーク
10回 11回 12回	6. 看護提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策 5) 看護サービス管理 6) 医療安全と医療の質保証	講義 グループワーク
13回 14回	7. 広がる看護活動領域	1) 国際化と看護 2) 災害時の看護	講義
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験・課題評価		
テキスト	系統看護学講座 専門I 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 新版 看護職の基本的責務 (日本看護協会) フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書き (現代社) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)		
参考文献	看護の本質 (現代社)		

【看護学概論】

自己学習時間	15時間	事前学習・事後学習	課題レポートに取り組む
--------	------	-----------	-------------

授業科目	看護倫理		対象学年・時期	3年生 前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護師としての職業倫理を理解できる 2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護倫理の基礎知識	1) 倫理・道徳・法 2) 看護倫理とは		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 看護師の倫理規定	1) 看護師の責務 2) 看護実践に関わる倫理の原則		講義 グループワーク
3回	3. 職業倫理と看護倫理	1) 職業倫理とは 2) 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史の理解		講義 グループワーク
4回	4. 倫理的ジレンマ	1) 道徳的ジレンマと倫理課題 ① 日常のケアにおける倫理的課題 ② 先端技術医療における倫理的課題		講義 グループワーク
5回	5. 倫理的アプローチ	1) 対象を中心とした看護 (1) 患者の権利擁護 (2) 患者のプライバシーの保護 2) 看護師としての自覚と責任ある行動 (1) 生命・尊厳権利の尊重と擁護 (2) 守秘義務の厳守と個人情報保護 (3) 事故の責任能力の的確な判断 (4) 看護師としての健康と品行の維持 (5) 環境問題における社会と責任の共有 (6) 患者・社会のニーズの把握 (7) 受容・共感的態度 (8) 説明と同意 (9) 信頼関係を築く行動		講義 グループワーク
6回	6. 意思決定プロセス	1) 倫理的アプローチ法 (1) Jonsenらの事例検討シートを用いた方法 (2) トンプソン&トンプソンの意思決定のための10のステップモデル (3) サラ・フライの看護実践における倫理的分析和意思決定モデル		講義 グループワーク
7回		1) 事例検討 (1) 患者の意思決定 (2) 倫理的ジレンマ		講義 グループワーク
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護講座 別巻 看護倫理 医学書院			
参考文献	看護職者のための倫理綱領 日本看護協会			

【看護倫理】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	倫理課題についてのレポートに取り組む
--------	-------	---------	--------------------

授業科目	共通基本技術		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	11
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護技術の基本原則	1)看護技術の特徴 2)看護技術の範囲 3)看護技術を適切に実践するための要素		*アクティブラーニング 講義
2回 3回	2. 人間関係の技術	1)コミュニケーションの意義と目的 2)コミュニケーションの構成要素と成立過程 3)関係構築のためのコミュニケーションの基本 4)効果的なコミュニケーションの実際 5)コミュニケーション障害への対応		講義 演習
4回	3. 記録・報告	1)看護記録とは 2)記載・管理における留意点 3)看護記録の構成		講義
5回	4. 安全確保の技術	1)誤薬防止 2)チューブ類の予定外抜去防止 3)患者誤認防止 4)転倒・転落防止 5)薬剤・放射線曝露の防止		講義
6回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (感染予防)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	12
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 感染予防の基礎知識	1) 感染と感染症 2) 感染成立の条 3) 院内感染の防止 4) 標準予防策の基礎知識 (1) 手指衛生 (2) 個人防護用具 5) 感染経路別予防策の基礎知識 (1) 接触予防策 (2) 飛沫予防策 (3) 空気予防策	講義	
2回	2. 標準予防策の実際	1) 衛生的手洗いの実際 (1) 流水による衛生的手洗い (2) 擦式消毒用アルコール製剤による衛生的手洗い	演習	
3回		2) 個人防護用具の取り扱いの実際 (1) 手袋 (2) サージカルマスク (3) フェイスシールド (4) エプロン 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実際	演習	
4回	3. 洗浄・消毒・滅菌 4. 無菌操作	1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 無菌操作の基礎知識	講義	
5回	5. 無菌操作の実際	1) 滅菌物の取り扱いの実際 (1) 滅菌鑷子 (2) 滅菌手袋	演習	
6回	6. 針刺し防止策	1) 針刺し防止の基礎知識	講義	
	7. 医療施設における感染管理	1) 感染管理のための組織 2) 感染症発生時の対応		
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (学習支援)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回 3回	1. 看護における学習支援	1) 健康に生きることを支える学習支援 2) 健康状態の変化に伴う学習支援		講義 演習
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)			
参考文献				

【共通基本技術】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	---

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術 I (環境)		対象学年・時期	1年次 前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45)
学習目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 療養生活の環境	1) 人間の健康と環境 (1) 環境の意義 ① 環境とは② 人間と環境③ 看護学における環境 ④ 快適な環境の要素		講義
2回	1. 療養生活の環境	2) 生活環境の調整 (1) 人と環境 (2) 療養生活と環境 (3) 生活環境の調整 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー) (4) 測定器具の使用方法		講義・演習
3回	2. 病室環境	1) 病室の構成 (1) 病室の環境と病床内環境 (共有・居住) 2) 病院で働く人々 3) 療養環境のアセスメント (1) 援助の必要性 (2) 病室・病床の選択		講義
4回	2. 病室環境	4) 療養環境の実際 (1) 病棟見学 ① 病棟の構造 ② 病室の構成、 ③ 病室の環境測定 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー)		病棟見学 (時期を考え変更は可)
5回	3. 療養環境の整備	1) ベッドメイキング (1) ベッドメイキングとは (2) リネン類の取り扱い		講義
6回	3. 療養環境の整備	2) ベッド周囲の環境整備 (1) 病床を整える援助技術 ・ 環境整備の基本		演習
7回	3. 療養環境の整備	3) ベッドメイキング (1) リネンの取り扱いの実際 (2) ベッドメイキングの実際		演習
8回	3. 療養環境の整備	3) ベッドメイキング (2) ベッドメイキングの実際		演習
9回		(3) リネン (シーツ) 交換の実際		
10回	3. 療養環境の整備	4) 臥床患者のリネン交換 (1) 臥床患者のリネン交換		講義
11回	3. 療養環境の整備	4) 臥床患者のリネン交換 (2) 臥床患者のリネン交換の実際		演習

12回	3. 療養環境の整備	1) ベッド周囲の環境整備 (1) 病床を整える援助技術 (環境調整の意識) ① 患者の状態に応じた環境調整 ・療養環境のアセスメントと実際		演習
13回		2) 患者の状態に合わせた環境とは		講義・演習
14回	3. 療養環境の整備	ベッドメイキング 技術チェック		技術チェック
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			
参考文献				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う	

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師 ★		時間数	30
			担当時間数	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 2.排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	講義形態	
1回	1.人間の健康と食事	1) 食事の意義 (1) 食事の身体的意義 (2) 食事の心理的意義 (3) 食事の社会的意義 2) 健康な食生活	*アクティブラーニング講義	
2回		3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力及び食欲、食に関する認識のアセスメント	講義	
3回	2. 医療施設で提供される食事 3. 食事の援助	1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法	講義	
		1) 経口的栄養摂取の援助 (1) 食事援助時の環境調整 (2) 食事援助により生じる問題とその問題を回避する方法 (3) 視覚障害、高次機能障害、嚥下障害時の食事援助	講義	
4回		2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養法	講義	
5回	4. 食事の介助	食事の介助の基本	演習	
6回	5. 経鼻胃管栄養法	経鼻胃管チューブ挿入 経管栄養法による栄養剤の注入	演習	
7回	6.人間の健康と排泄	1) 排泄の意義 (1) 排泄の身体的意義 (2) 排泄の心理的意義 (3) 排泄の社会的意義 2) 排泄行動のアセスメント	講義	
8回	7.対象の状態に応じた排泄の援助	1) 自然な排泄を促す援助 (1) トイレにおける排泄の援助 (2) ポータブルトイレにおける排泄援助 (3) 床上排泄の援助(尿器・便器)	講義	
9回		2) 対象の状態に応じた援助 (1) オムツによる排泄の援助 (2) 摘便	講義	
10回		尿器・便器を用いた排泄の介助、オムツ交換	演習	

11 回		3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿	講義
12 回		一時的導尿	演習
13 回		3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) グリセリン浣腸 4) 排泄物の観察	講義
14 回		グリセリン浣腸	演習
15 回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験、演習課題		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

【日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅲ (姿勢と体位、睡眠・休息)		対象学年・時期	1年次・前期	
			単位数	1	
			時間数	30	
講師名	看護師 ★		講義時間	29	
			テスト時間	1(45分)	
学習目標	1. 様々な移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する				
回	主 題	学習内容及び方法		講義形態及び教室	
1回 2回	1. 姿勢・活動	1) 基本的活動の基礎知識：活動とは 2) 良い姿勢とボディメカニクス 3) 活動・運動の能力のアセスメント		*アクティブラーニング 講義	
3回 4回		1) 体位 2) 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)		講義	
5回 6回		(1) 体位変換 (2) 車椅子への移乗・移送		演習 (実習室)	
7回 8回		(3) 歩行・移乗・移送について ①歩行介助(歩行器、松葉杖、T字杖) ②ストレッチャーへの移乗・移送		演習 (実習室)	
9回		※車椅子への移乗動作技術		技術チェック (実習室)	
10回		1) 運動機能維持・拡大に向けた援助 (1) 自動・他動運動 (2) ROM		講義・演習	
11回		2. 睡眠・休息の援助	1) 休息の種類と意義 2) 睡眠・休息状態のアセスメント 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4) 睡眠障害とその援助方法		講義
12回 13回			1) 体位保持(ポジショニング) (1) 安楽な体位の調整 2) 巻法 (1) 温巻法 (2) 冷巻法		講義 演習 (実習室)
14回			1) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 (1) リラクゼーション法 (2) 熱布バックケア 2) 安楽を促進するためのケア		講義
15回		まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)				
参考文献					

【日常生活の援助技術Ⅲ(姿勢と体位、睡眠・休息)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 2.身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔維持の技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 人間の健康と清潔 2. 清潔援助とは	1) 健康な人の清潔の意義 2) 健康を害した人の清潔援助の必要性 3) 清潔援助の看護師の役割		*アクティブラーニング 講義
2回	3. 清潔援助の基本 4. 全身的な清潔①	1) 身体各部の清潔の援助方法 2) 全身的な皮膚の清潔(入浴・シャワー浴)		講義
3回	5. 療養生活における衣服の機能	1) 衣服を身につけることの意義 2) 病衣の種類と選び方・状態に合わせた寝衣交換		講義
4回	6. 全身的な清潔②	1) 状態に応じた清潔援助技術(清拭)		講義
5回	7. 対象の状態に応じた寝衣交換	1) 臥床患者の寝衣交換(前開きパジャマ) 2) 全身清拭・寝衣交換の実際		演習 デモンストレーション
6回	8. 清潔援助①	1) 臥床患者の清拭		演習
7回	8. 清潔援助②	1) 臥床患者の全身清拭		演習
8回	9. 部分的な清潔①	1) 手浴・足浴の意義と効果 2) 状態に応じた手浴・足浴の援助技術 3) 陰部洗浄の意義と効果 4) 状態に応じた陰部洗浄		講義
9回	10. 部分的な清潔② 11. 整容とは	1) 口腔ケアの意義と効果 2) 状態に応じた口腔ケア 3) 整容の意義と効果 4) 整容の援助技術(爪切り・耳・髭剃り)		講義
10回	12. 部分的な清潔③	1) 洗髪の意義と効果 2) 状態に応じた洗髪援助技術		講義
11回 12回	13. 部分的な清潔援助	1) 臥床患者の部分的な清潔援助 (洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄・口腔ケア《歯磨き》)		演習
13回	14. 清潔援助③	1) 患者の状況に応じた臥床患者の清拭と寝衣交換		演習
14回	15. 清潔援助④	1) 「清拭・寝衣交換」技術チェック		技術チェック
15回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験、演習課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
参考文献				

【日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	ヘルスアセスメント		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1単位
講師名	看護師 ★		時間数	30
			担当時間数	19
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 看護におけるヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントの考え方 (1)アセスメントとは (2)ヘルスアセスメント 2)アセスメントプロセス (1)環境調整 (2)対象者の準備 (3)看護師の準備とアセスメントの進め方	*アクティブラーニング 講義	
2回 3回	2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー(健康歴)	1)問診の技術 2)ヘルスヒストリーの実際 (1)主訴 (2)現病歴 (3)既往歴 (4)生活背景 (5)生活状況 (6)生活行動	講義 演習	
4回 5回 6回	3. フィジカルアセスメント	1)フィジカルアセスメントの基本技術 (1)視診 (2)触診 (3)聴診 (4)打診 2)身体各部の測定 (1)バイタルサインの測定 ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤体温 (2)身長・体重・胸囲・皮下脂肪厚測定	講義 演習	
7回	4. 系統別アセスメント	1)系統的アセスメントと頭尾法 (1)頭尾法によるヘルスアセスメントの実際	講義 演習	
8回 9回	5. 心理・社会的側面からのアセスメント	1)心理・社会的側面の系統的アセスメント (1)健康知覚-健康管理:健康管理のために行う活動 (2)自己知覚-自己概念:自己に対する認識 (3)役割-関係:家族や社会における役割 (4)コーピング-ストレス耐性:ストレスに対する対処行動 (5)価値-信念:人生や生活を送る上での価値観 *痛みを含む	講義 演習	

10回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門Ⅰ基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版
参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント(メディカ出版) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第2版(南江堂)

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	ヘルスアセスメント		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1単位
			時間数	30
講師名	看護師 ★		担当時間数	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	1)呼吸器系のフィジカルアセスメント (1)胸部の視診(2)肺音・呼吸音・副雑音の聴診 (3)胸郭の動きの触診(4)呼吸状態のアセスメント		講義 演習
2回	2. 心臓・循環器のフィジカルアセスメント	2)心臓・循環器系のフィジカルアセスメント (1)循環器系の視診(2)心音・心雑音の聴診 (3)皮膚温・動脈の触診(4)循環動態のアセスメント		講義 演習
3回	3. 腹部・消化器のフィジカルアセスメント	3)腹部・消化器系のフィジカルアセスメント (1)腹部の視診(2)腸蠕動音の聴診(3)腹部の触診 (浅い触診/深い触診)(4)消化機能のアセスメント		講義 演習
	4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント	4)筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)四肢・体幹の視診 (2)関節可動域:ROM (3)筋力評価:MMT (4)日常生活動作 (5)運動機能のアセスメント		講義 演習
4回	5. 神経系のフィジカルアセスメント 6. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	5)神経系のフィジカルアセスメント (1)意識レベル (2)認知機能 (3)運動機能の評価 (4)感覚機能の評価* <u>痛みを含む</u> (5)反射 (6)神経機能のアセスメント ◇打腱器 6)乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1)リンパ節周囲の視診 (2)リンパ節、甲状腺の触診 (3)リンパ系のアセスメント		講義 演習
5回	7. 頭部・視聴覚系のフィジカルアセスメント	7)頭部、視聴覚系のフィジカルアセスメント (1)頭部、顔面(眼、鼻、耳、口腔)の視診 (2)頭部、顔面の触診 (3)視力・視野・色覚・嗅覚・聴力・嚥下機能 (4)頭部、視聴覚系のアセスメント ◇ペンライト、耳鏡、眼底鏡、音叉		講義 演習

評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版
参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント(メディカ出版) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第 2 版(南江堂)

【ヘルスアセスメント】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	解剖生理学を理解し講義に参加する 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	--

授業科目	看護の展開方法		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 対象のもつ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回 3回	1. 看護とは	1) 看護とは 2) 看護における対象の捉え方		講義
	2. 看護過程の基盤となる考え方	1) 問題解決思考 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション 5) 臨床判断モデル		*アクティブラーニング 講義 演習
	3. 看護モデルとアセスメント分析	1) 看護理論と情報収集 2) アセスメントの枠組み(ゴードンの機能的健康パターン)		
4回 5回 6回	4. 看護過程の構成要素	1) 情報収集と分析 (1) 情報収集の技術(観察含む) (2) 主観的データと客観的データ (3) 情報の持つ意味 (4) 情報を分析する道筋 (現状・原因・成り行き)の推測・判断 (5) 全体像の把握		講義 演習
7回 8回		2) 看護問題の明確化 (1) 看護診断、共同問題 (2) 優先順位の決定		講義 演習
9回 10回		3) 看護計画 (1) 期待される成果の明確化 (2) 看護計画の立案 4) 実施の流れ、記録 5) 評価の方法		講義 演習
11回 ～ 15回	5. 看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開 ・目標設定・計画立案・実施 ・対象の日々の変化に合わせた計画修正 ・期待される成果や患者の反応に合わせた計画修正		演習
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版 看護診断ハンドブック 第11版 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版			
参考文献	看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (MEDIC MEDIA)			

【看護の展開方法】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	診療に伴う技術 I		対象学年・時期	1 年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45 分)
学習目標	1. 診療と検査の意義、目的を理解する 2. 診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1 回	1. 診察・検査を受ける人への看護	1) 診察の目的と種類診察の方法、看護師の役割 2) 検査・処置の種類、看護師の役割 1) 診察時の援助 2) 検査時の援助		*アクティブラーニング 講義
2 回	2. 生体検査の援助の方法	1) 心電図 2) X 線検査 3) コンピューター断層撮影 4) 磁気共鳴画像 5) 内視鏡検査 6) 超音波検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査		講義
3 回	3. 検体検査と援助の方法	1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 5) 血液検査 5) 簡易血糖検査		講義
4 回	4. 静脈血採血の目的と方法	1) 注射器・ホルダー・針・真空採血管の取り扱い 2) 簡易血糖測定の方法 3) 実施時の留意事項		講義 デモンストレーション
5 回 6 回	5. 静脈血採血・簡易血糖測定の実際	1) ホルダー採血法 2) 注射器採血法 3) 簡易血糖測定		演習
7 回	6. 穿刺時の看護	1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺 4) 骨髄穿刺		講義
8 回 9 回	7. 創傷管理	1) 創傷とは 2) 創傷の治癒課程 3) 創傷処置 4) 褥瘡予防 5) ドレッシング材の種類と特徴 6) 包帯法の目的 7) 包帯の種類 8) 援助の実際		講義 演習
10 回 11 回	8. 呼吸・循環を整える技術	1) 酸素療法の実際(中央配管方式、酸素ボンベ) 2) 排痰ケア 3) 口・鼻腔内吸引 4) 気管内吸引 5) 保温・体温管理		講義 演習
12 回 13 回	9. 救命救急処置	1) 一次救命処置 2) 気道異物除去 3) 止血法 4) 体温の保持・冷却 5) 家族への援助		講義 演習
14 回	10. ME 機器の原理と看護の役割	1) ME 機器とは 2) ME 機器の種類と原理 3) 看護の役割		講義
15 回	終講試験			
評価方法	筆記試験 技術試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床検査(医学書院)			
参考文献				

【診療に伴う技術 I】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	---

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 薬物療法時の看護師の役割	1) 薬物療法の基礎知識 (1) 薬物療法の意義・目的 (2) 薬物の種類と取り扱い方法 2) 看護師の役割 (1) 正しい与薬 (2) 薬の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む) 3) 看護師の与薬における法的責任について		* アクティブ ラーニング 講義
2回		4) 体内動態過程(吸収・分布・代謝・排泄)と与薬方法 5) 薬剤における医療事故		講義 演習
3回	2. 与薬方法①	1) 経口与薬・口腔内与薬の援助方法 2) 与薬における看護師の役割		講義
4回	3. 与薬方法②	1) 外用薬の与薬方法 (1) 直腸内与薬(2) 吸入(3) 経皮的与薬 (4) 点眼・点鼻・点耳		講義
5回	4. 注射の基礎知識	1) 注射法の基礎知識 (1) 技術の概要(2) 注射法の基本 (3) 注射法の種類(4) 薬剤の取り扱い		講義
6回		2) 注射器の取り扱い 3) 注射薬の準備		実技演習
7回	5. 各種注射法①	1) 皮下・皮内注射 (1) 皮下注射・皮内注射の方法と留意点		講義
8回		(2) 皮下注射の実際(上腕)		実技演習
9回	6. 各種注射法②	2) 筋肉内注射 (1) 筋肉内注射の方法		講義
10回		(2) 筋肉内注射の実際(中殿筋)		実技演習
11回	7. 各種注射法③	3) 静脈内注射 (1) 点滴静脈内注射の方法と留意点 (2) 管理方法		講義

12回		(3) 点滴静脈内注射の準備 (ミキシング・プライミング・側管注・滴下調整)	実技演習
13回		(4) 輸液ポンプの取り扱い方法とその実際	講義 実技演習
14回	8. 輸血の管理	1) 輸血管理 (1) 輸血製剤の種類と取り扱い方法 (2) 輸血方法 (3) 輸血を受ける患者の看護	講義 実技演習
15回	まとめ 終講試験	まとめ 終講試験	講義 終講試験
評価方法	試験(筆記試験・技術試験)		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

【診療に伴う技術Ⅱ】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	---

授業科目	看護研究		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性を学び、研究方法の基礎を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 研究の意義・必要性	1) 研究とは何か 2) 看護研究とは 3) 研究のプロセス 4) リサーチクエスト		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 文献の活用	1) 文献検討の重要性と方法 2) 文献の読み方・クリティーク 3) 文献レビューの記述と実際		講義・演習
3回	3. 研究の種類	1) 質的研究と量的研究 2) 研究デザインの種類と特徴 3) 概念枠組み		講義
4回	4. 研究の方法1	1) データとは 2) 質的データと量的データの収集方法 3) データ分析の基本 4) 研究における倫理的配慮		講義
5回	5. 研究の方法2	1) 研究テーマの設定 2) 研究内容の具体化 3) 研究計画書の必要性と書き方		講義
6回	6. 研究の方法3	1) 研究計画書の作成		演習
7回	7. 研究論文の書き方と研究成果の公表	1) 研究論文の構成 2) 抄録とは 3) 研究結果の発表 4) 論文作成時の留意点		講義
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験および提出物			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院)			
参考文献				

【看護研究】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	研究課題に取り組めるよう講義内容を学習する
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	看護研究演習		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 研究クリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 2. 自己の看護実践の意味づけができる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 研究成果の活用	1) ケーススタディとは 2) ケーススタディの意義・目的 3) ケーススタディの方法 4) ケーススタディの書き方 5) 研究テーマの設定 6) ケーススタディにおける文献検討		*アクティブ ラーニング 講義
2回	2. 研究のクリティーク	1) 文献の読み方 2) ケーススタディのクリティーク		講義・演習
3回	3. 看護実践の意味づけ1	1) ケーススタディ計画書とは 2) ケーススタディ計画書の作成		講義・演習
4回 5回	4. 看護実践の意味づけ2	1) ケーススタディ作成		講義・演習
6回	5. 研究成果の伝達および講評	1) 研究発表の方法と意義 2) 抄録の作成 3) 講評とは		講義
7回 8回	6. ケーススタディ発表会	1) ケーススタディ発表 2) 相互評価・講評		発表会
評価方法	演習課題および取り組み状況により評価する			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院) 松本孚他:新版看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)			
参考文献				

【看護研究演習】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	研究課題に取り組めるよう講義内容を学習する
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	基礎看護学実習 I (日常生活援助)	対象学年・時期	1 年次・後期
		単位数	1
		時間数	45
実習目的	療養の場における対象を生活者としてとらえ、対象に合わせた日常生活援助が実施できる		
	実習目標及び内容		
	<p>1)療養の場における対象を生活者としてとらえ、対象に合わせた日常生活援助が実施できる</p> <p>(1)対象の生活環境が理解できる</p> <p>①入院している対象の療養生活の環境について知ることができる</p> <p>②対象の療養環境調整の必要性について考えることができる</p> <p>(2)看護の対象を理解することができる</p> <p>①対象に合わせた言葉づかい・身だしなみ・態度で他者と関わることができる</p> <p>②対象の訴えをありのまま聴くことができる</p> <p>③意図的に非言語的メッセージを観察することができ、その意味を考えることができる</p> <p>④対象の反応を確認し、話しやすい環境を配慮しながら、意図的にコミュニケーションを図ることができる</p> <p>⑤対象の身体的・心理的・社会的側面を把握するための情報収集ができる</p> <p>(3)対象に合わせた日常生活援助が実施できる</p> <p>①対象の状況に応じた援助の必要性を述べることができる</p> <p>②対象に必要な援助を計画することができる</p> <p>③援助前の対象の状態を確認し、立案した計画が実施可能か判断することができる</p> <p>④立案した計画に基づき、対象の反応を確かめながら援助を実施することができる</p> <p>⑤安全を守り、安楽・自立に配慮した援助が実施できる</p> <p>⑥援助の根拠、計画、実施の過程を振り返ることができる</p> <p>⑦援助の振り返りをもとに計画の追加・修正ができる</p> <p>⑧状況に応じて報告・連絡・相談をすることができる</p> <p>2)保健医療チームの一員として、看護者に求められる基本的姿勢を身に付ける</p> <p>(1)感染予防策が実施できる</p> <p>(2)日常生活援助の実施を通しての看護に対する自己の考え、今後の課題を表現できる</p> <p>(3)時間を管理し、責任を持った行動がとれる</p> <p>(4)実習目標の到達に向けて、主体的に学習に取り組むことができる</p> <p>(5)チームの一員として適切な人間関係を持つことができる</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ(看護の展開方法の実際)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	対象に応じた看護の実践に看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を身につける。対象を総合的にとらえ、科学的根拠を用いて健康問題を明らかにし、看護を計画、実施、評価するプロセスについて実践をとおして学ぶ。これにより、対象に合わせた看護を実践するための基礎を習得する。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 受け持ち患者への看護実践に看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を理解する。</p> <p>(1) 情報源を活用し情報収集ができる</p> <p>(2) コミュニケーションスキルを活用し、看護に必要な情報を収集できる</p> <p>(3) アセスメントツールを活用し情報の整理ができる</p> <p>(4) 知識・理論に基づき、情報の意味の解釈ができる</p> <p>(5) 対象の状態を健康時・基準値と比較し情報の分析ができる</p> <p>(6) 対象の健康問題の原因・誘因が明確にできる</p> <p>(7) 情報の関連付け(統合)ができる</p> <p>(8) 対象の望ましい状態を考え、健康問題の抽出ができる</p> <p>(9) 対象の状態にあわせて優先順位が決定できる</p> <p>(10) 対象の健康問題を解決するための具体的な目標が設定できる</p> <p>(11) 対象の個別性や強みをいかした具体策の立案ができる</p> <p>(12) 対象の安全・安楽を考慮した方法で実施できる</p> <p>(13) 対象の反応をとらえ、コミュニケーションを図りながら実施できる</p> <p>(14) 実施した内容を正確に、要点をふまえて報告できる</p> <p>(15) 実施した看護援助の評価ができる</p> <p>(16) 立案した看護計画の評価ができる</p> <p>2) 保健医療チームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける</p> <p>(1) 対象を尊重し、誠実な態度で関わることができる</p> <p>(2) 信頼を得るために、個人としての品行を常に維持できる</p> <p>(3) チームの一員として自分の役割を自覚し、責任をもった行動がとれる</p> <p>(4) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある</p>		
評価方法	評価表による評価		